

0680 | 工芸 I

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

田中克明教授、小林良一講師

授業の概要と目標

私たちの暮らしは、衣食住のさまざまな局面で西欧化の道を辿ってきた。しかし、一方では日本の伝統的な習慣や事物も根強く受け継がれ、今日的生活文化を豊かなものになっている。様々な生活用品も、大量生産による工業製品によってその多くを占められているが、日本の各地で発展継承された地域の産業によって供給されているものも少なくない。しかし、生活様式などを含めた社会の激しい変動は、この地域の産業と生活者の関係を希薄にし、将来を楽観できない状況にまで追い込んでいる。デザインの役割の一つはこの伝統的産業に現代的意味を見だし活性化させることだと言える。それには、地元産業への深い理解とともに、良質の生活観から提言される新たなライフスタイルと産業が濃密に関係することが重要である。

この授業は、日本各地の地域の工芸に注目し、その調査から「工芸」の現代的意味を探るとともに、ハンドクラフト、工業製品などとの関係、地域の工芸の将来、製品デザインの在り方を考察することを内容としている。なお、教職「工芸」の鑑賞に対応している。

課題の概要

○面接授業課題

「見学と体験」工芸品の生産現場や博物館、資料館などの見学・体験、ライフスタイルショップの見学など幅広く工芸の有り様に直接ふれ、日本人の美意識を形成する伝統と現代のライフスタイルを考察。最終日に「工芸のあり方」の提言を 2000 字程度のレポートにまとめる。

○通信授業課題

「デザイン調査」居住する地域や近在の産業として営まれている工芸を俯瞰し、また生産現場を見学して記録するとともに、自分自身でその製品を使用してデザインを分析、考察しレポートにまとめる。
*課題については学習指導書『工芸 I・II 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

面接授業



通信授業

[面接授業]

第 1 日：工場見学

第 2 日：見学した工場に関連した展示等の見学

第 3 日：授業のまとめ

面接授業の内容は受講者数や見学先の都合、面接授業の日程により変更することがある。

[通信授業]

工芸品の産業的調査及び製品のデザインの調査・分析をし、レポートとしてまとめる。

成績評価の方法

通信授業、面接授業の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わないが、製図やレンダリング等の技能が要求されるので、「図法製図 I・II」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースへの進学希望者は、素材別基礎実習 I・II 等の履修を勧める。

本科目と併せて「民芸論」、「工業技術概論」を履修すれば理解が深まるだろう。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：横溝健志監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『工芸 I・II 平成 29 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）